

令和6年度第1回和泉市地域福祉推進協議会 振り返り資料

【開催日時】 令和6年8月23日（金）10時00分から12時00分

【主な内容】

議題

- ・第5次和泉市地域福祉基本・活動計画の進行管理について
- ・第5次和泉市地域福祉基本計画の目標について

開会あいさつ (事務局)	●地域における人と人との『つながり』が弱まっていることにより、町会・自治会、民生委員・児童委員や校区社会福祉協議会ボランティアといった地域活動の担い手が不足し、担い手の負担が増しているといった課題がある。 ●「孤独・孤立」「経済的困窮」「8050 問題」「ヤングケアラー」などの複雑化・複合化した課題は従来の公的サービスでは対応が難しくなっていることから、これらの解決には、公的支援(公助)と市民どうしのささえあい(共助)が連動した切れ目のない支援体制の構築が求められる。			
議題 1 (第5次和泉市地域福祉基本・活動計画の進行管理について)	和泉市地域福祉基本・活動計画について、基本計画は「和泉市地域福祉推進協議会」、活動計画は「和泉市福祉でまちづくり委員会」にて、毎年度計画内容の見直しを審議する旨事務局より説明。			
	委員からの意見	その場対応	対応状況	対応
	校区社協ボランティアは校区別アクションプランをPDCAサイクルで進捗管理することにはまだ慣れていない。社協に協力してほしいところを地域で意見を出し合うことが必要。	計画は5年間ですが、まずは3年くらいで優先順位をつけ、地域と協力して進めていきます(市社協)。	校区ごとに多少差はありますが、優先的に進めるべき項目を決め話し合いを進めておられます。	済
	校区別アクションプランの年度ごとの達成度は誰が評価するのか。	実際に活動されている住民の皆さんで評価していただきたい(市社協)。	当該年度の評価は、協議の場等で翌年に評価を行うこととなっています。	済
	協議の場は代表者の話だけになることが多いので、小さな部会で進めていけば良いのでは。	(※他の委員からの意見) 主体的に考えてもらうための一つの方法として部会制度も良い。具体的なテーマであれば関わりたいと思えるのではないかな。		

	障がい者団体同士のつながりはあるが、障がい者個人は町会・自治会に入れておらず、自ら身を引いた方もいる。地域で育った住民同士が接する場ができれば、地域に入り込めるのではないかな。	(※他の委員からの意見) 障がいがあると特別な人という認識になってしまっている。障がい者に対する配慮を当たり前のようにできるようになると、垣根は低くなるのではないかなと思う。		
議題 2 (第5次和泉市 地域福祉基本 計画の目標に ついて)	計画 43P でボランティア登録者数が成果目標になっているが、ボランティアに登録しても実際には活動していない人もいられると思われる。実際にボランティアの担い手になった人を成果目標にすべきではないかな。	関係課と再度ヒアリングをしながら目標内容を精査します(市)。	関係部局より再ヒアリングを実施し、成果目標を再修正。	済
	計画55Pの成果目標について、認知症サポーターの養成講座受講者数が成果目標になっているが。これは業績目標である。市職員の中に業務目標と成果目標の違いを理解されていない方がいるのでは。	関係課と再度ヒアリングをしながら目標内容を精査します(市)。	関係部局より再ヒアリングを実施し、成果目標を再修正。	済
事務局総括 (副市長)	●計画 39P の生活困窮者自立支援に関する目標については、庁内で生活困窮者とは何か、生活困窮者自立支援とは何かという定義から見直している。 ●計画40P の拠点整備に関する目標について、医介連携の拠点も念頭に置いて進めていく。 ●計画51Pの福祉と教育との連携に関する目標について、成果目標はSSWが繋いだ件数は指標として正しくないなので、元に戻すべき。			

- | |
|---|
| <p>●計画63Pの医療のまちブランドにおける目標について1 年先送りするスケジュール修正があるが、当初の計画通り進めていてもらいたいと考える。</p> <p>●計画43Pのボランティア養成講座に関する目標について、校区社協におけるマネジメント、PDCA の啓発はやはり難しく、自助、共助を支える公助の役割をこれから市は果たしていかないといけないということから市行政の責任としてあり、地域の活動の活動がしっかり実現するように市社協と協力してやっていくということを考えている。行政マネジメントの考え方から言うと、やはり課題設定あるいは設定目標は客観的でなければいけないと考えられ、誰が評価しても同じになるような目標設定にするのが望ましい。</p> <p>●今回の地域福祉計画には、いわゆる地域活動のことがあまり出てこず、地域活動イコール地縁活動であるかのように見えてしまっている。これは今回の計画の限界でもあり、次へ向けて修正していくべきだと考えている。障がい者団体や子ども食堂などの地域活動団体と、どう連携していくかということをしっかり考えて、マネジメントを見直していきたい。校区别アクションプランだけではなく、地域活動組織、NPO も含めたアクションプランも最後にあった方が良い。</p> <p>●市社協の改革が計画の基本目標5に掲げられており、市社協は地域社協、校区社協だけではなくて地縁以外の地域活動もサポートするという責務があるはずなので、共助を支える共助としてサポートしていく必要がある。以上のようなことを踏まえて修正し、委員の皆様方にお諮りをしたいと思っている。</p> |
|---|